

たばしね
**東稲山麓地域の
災害リスク分散型土地利用システム**

岩手県東稲山麓地域



日本農業遺産

概要情報

農林水産業システムの名称

たばしね

東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム

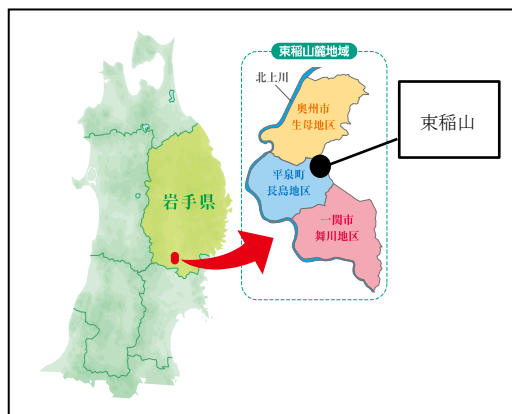
日本農業遺産の認定年月日 : 令和5年1月17日

申請団体

- ・団体名 : 東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会
- ・組織構成 :
 - (自治体) 一関市、奥州市、平泉町、岩手県
 - (農業団体) いわて平泉農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、胆沢平野土地改良区、北上川東部土地改良区、照井土地改良区
 - (都市農村交流団体) いちのせきニューツーリズム協議会、おうしゅうグリーン・ツーリズム推進協議会前沢支部、平泉町グリーン・ツーリズム推進協議会
 - (集落営農組織) 農事組合法人アグリパーク舞川、農事組合法人アグリ平泉
 - (地元組織) 舞川地区区長会、生母地区振興会、平泉町区長会、舞川3区集落協定、舞川18区集落協定、赤生津中央地域活性化組合、成岡田農地・水保全管理活動組織、14区集落協定、18区中村集落協定、生母生産森林組合、東稲山さくらの会
 - (有識者) 千田良一（元一関文化会議所文化事業課長）、小野寺正幸（元前沢図書館館長）、千葉信胤（平泉文化遺産センター参与）、丸山安四（元平泉町助役）

認定地域の位置

- ・申請地域名 : 岩手県東稲山麓地域
(一関市・奥州市・平泉町 2市1町)
- ・申請地域の位置に関する説明
岩手県南部の一関市、奥州市及び平泉町の境界に位置する東稲山の西麓で、山裾を東北地方最大河川の北上川が流れている。
- ・地理座標（緯度経度）
東経 141 度 7 分 16 秒～141 度 14 分 00
北緯 38 度 55 分 45 秒～39 度 4 分 18 秒



主要都市から認定地域までのアクセス

- ・鉄道
東京 → (JR 東北新幹線、約 2 時間 10 分) → 一ノ関 → (JR 東北本線、7 分) → 平泉 → (車、約 10 分) → 東稲山麓
- ・車
浦和 IC → (東北自動車道、427.0km) → 平泉前沢 IC → (約 10 分) → 東稲山麓
仙台宮城 IC → (東北自動車道、99.4km) → 平泉前沢 IC → (約 10 分) → 東稲山麓

面積 78.34 km ² ※国土地理院調査
地形的特徴 ・東稲山麓地域の西側を一級河川の北上川※が流れ、東側には北上山地があり、標高 595m の東稲山を中心とする連峰が形成されている。 ・北上川から東稲連峰までは 4 ～ 6 km に過ぎず、この狭いエリアに、北上川沿いの低平地（沖積地）と山麓地（中山間地）、山地が存在し、生活の拠点となる集落は山麓地に立地している。 ※ 岩手県中央部を北から南に流れ、宮城県東部の石巻市で太平洋に注ぐ一級河川。流路延長 249km、流域面積 10,150 km² は、東北地方の河川の中では最大、日本全国では 4 番目の規模である。日本の河川としては勾配がかなり緩いことが特徴。
気候区分 温暖湿潤気候 年平均気温：11.7℃ 年間降水量：1,211.6mm ※気象データはアメダス—観測地点データ平年値(1991～2020)
人口（うち受益者） 6,241 人（総農家数 1,143 戸） ※各市町集計データ(R4.4.1 現在)、農林業センサス 2020
主な生計源 農業、林業

農林水産業システムの概要

岩手県東稲山麓地域において、たび重なる洪水害や干ばつ等の自然災害に適応しながら、山麓地の暮らしと営農に必要なため池や森林の共同管理を行い、山麓地と低平地の両方に農地を所有し、地域一体となった立体的な土地利用や水源管理等の取組により、自然災害のリスク分散を図る独自の農林業システムが構築され、今日まで継承されている。

（地理的特性とシステム形成の背景）

当地域は、北上川から東稲連峰までの約4～6km圏内の狭いエリアに、川沿いの低平地、山麓地及び山地が存在する特徴的な地形を有している。

北上川は岩手県内陸部の降水を集めて流下するが、当地域の直下流部に約30km続く狭窄部を抱えているため、低平地では、たびたび洪水害が発生している。

一方、低平地に隣接する山麓地は、集水域が極端に狭く、水源が乏しいため、干ばつや水不足に悩まされている。さらに、山麓地上部の山地は、急峻な地形と相まって土砂災害リスクを抱えている。

農林業が地域経済を支える当地域の継続的な発展のためには、こうした自然災害の影響を最小限に抑え、できるだけ多くの食料と収益を確保する必要があった。

（伝統的な知識システムの概要）

当地域の農家は、約300年前から、低平地と山麓地の農地の分散所有により、主に山麓地では食料（米等）を確保し、水害リスクを抱えるものの肥沃で生産力の高い低平地で商品作物を栽培するとともに、冠水による影響を低減するための作目選定や地域固有の栽培方式を確立した。

また、貴重な水資源を棚田等へ供給するため、藩政時代以前から、ため池を築造し、水路とともに、集落共同で維持・管理する仕組みを継続し、干ばつ・水不足に備えてきた。さらに、村有林や部落有林を保全・管理し、現在もなお広葉樹の植林等を行うなど、土砂災害の発生防止と水源の涵養に努めてきた。

以上のように、狭いエリアに標高差のある土地が立地する条件を生かし、共同・互助の精神を礎として、多様な知恵や技術を有機的に組み合わせながら、他に例をみない重層的なリスク分散システムを構築したところである。

（地域の特徴）

地域の農家・住民が協力し合いながら、長年にわたって取り組んできた行動様式は、今なお受け継がれている巨石に纏わる祭りや神楽等の活動にも現れている。

また、低平地、山麓地及び山地を一体的に管理することにより、多様な生物の生育環境が確保され、豊かな生態系が維持されている。

特徴的な山容を持つ東稲山と北上川、その対岸には世界遺産「平泉」が位置し、その景観は、古くから和歌にも詠まれるなど、地域の象徴として昔から親しまれてきた。

（システムの重要性）

本システムは、気象変動や社会経済の変化に適応しながら、世代を越えて食料と生計を保障し、レジリエンスに優れたシステムであり、世界各地で自然災害が頻発する状況にあって、その現代的な意義は大きい。

また、SDGsへの貢献が大いに期待され、Eco-DRR[※]等の先進事例であり、中山間地域における持続可能な農林業システムと評価されるものである。

※ 生態系を活用した防災・減災（Ecosystem-based disaster risk reduction）

災害から生命と生活を守り未来へつなぐ「東福山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」

概要

- 岩手県東福山^{※1}麓地域(奥州市生母地区、平泉町長島地区及び一関市舞川地区)は、たび重なる洪水害や干ばつ等の自然災害に見舞われてきた
- 地域一体となった立体的な土地利用や水源管理等の取組により、自然災害のリスク分散を図る独自の農林業システムが構築・継承
- 豊かな農業生態系と個性ある文化が育まれ、独特のランドスケープが形成

※1 東福山：経塚山、音羽山、東福山の三つの山の総称

特別な価値と重要性

- 気象変動や社会経済の変化に適応しながら、世代を越えて食料と生計を保障。レジリエンスに優れたシステムであり、世界各地で自然災害が頻発する状況下、その現代的意義は大きい
- SDGsへの貢献が期待され、Eco-DRR^{※2}等の先進事例であり、中山間地域における持続可能な農林業システムと評価

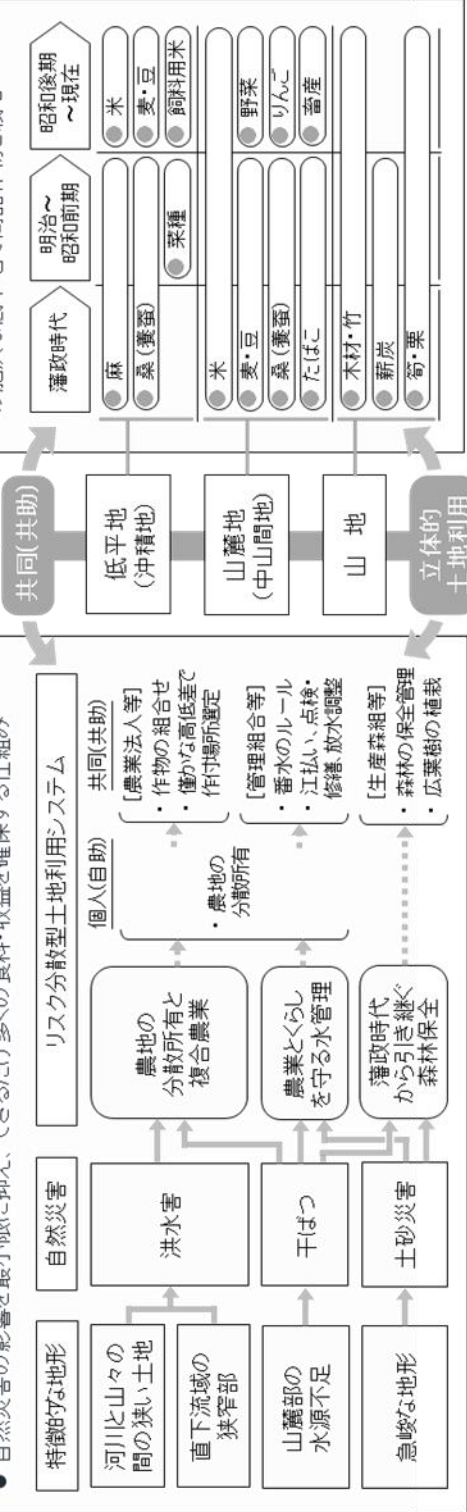
※2 Eco-DRR：生態系を活用した防災・減災(Ecosystem-based disaster risk reduction)

伝統的な知識システム

- 当地域の農家は、藩政時代から、山麓地と低平地の双方に土地を分散所有し、複合農業を営むとともに、共同(共助)の精神を礎とし、水利施設の管理や森林の保全に取り組む
- 自然災害の影響を最小限に抑え、できるだけ多くの食料・収益を確保する仕組み

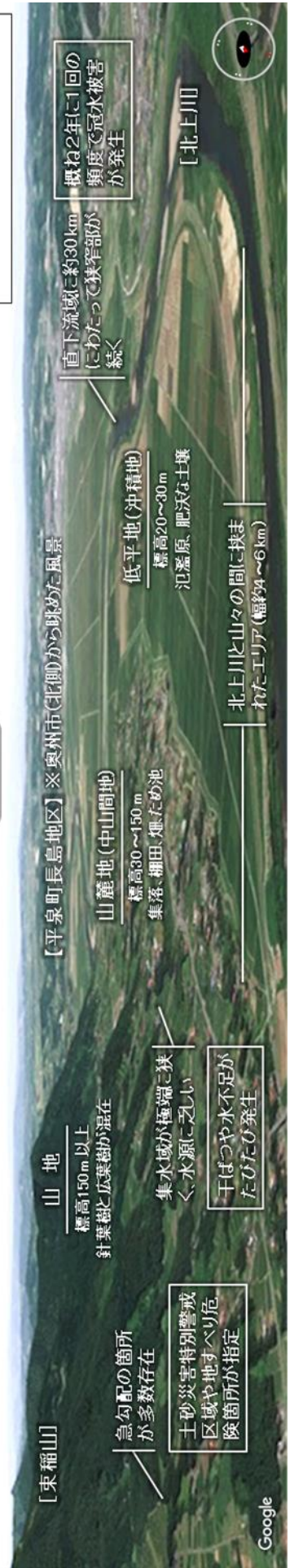
食料と生計の保障

- 時代変化に対応しながら、主に山麓地で食料(米等)を確保し、水害リスクを抱えるものの肥沃な低平地で商品作物を栽培

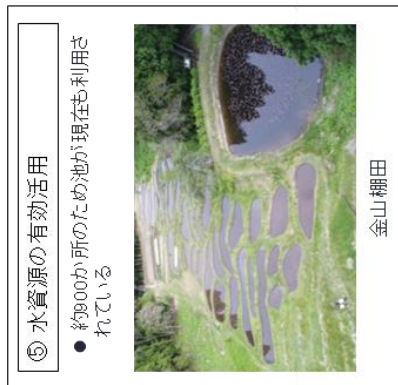
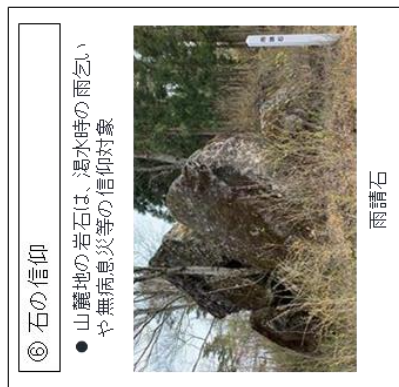
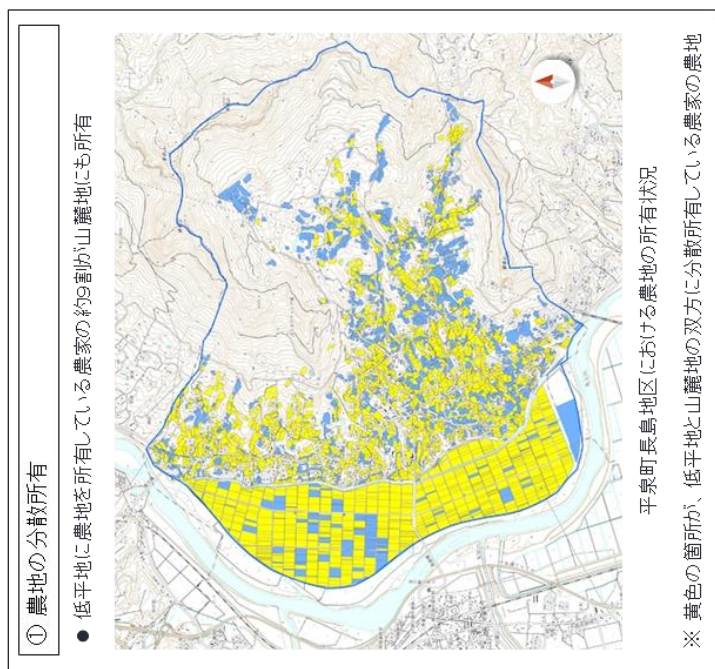


地域の特徴

- 農業生物多様性
立体的な土地利用が育む多様な生態系
・ハクチョウ、マガモ、キキョウ、カラフトアヒ、水生昆虫 など
- 文化・価値観・社会組織
現在も守り継ぐ石の信仰と農村文化、奥州藤原氏の関わり
・巨岩信仰(雨乞い、無病息災)
・岩石利用(棚田の石垣)
・経塚山と月山神社 など
- ランドスケープ
地域の象徴として親しまれる東福山と北上川
・西行(山家集)
「ききもせず 東福山のさくら花 吉野の外にかかるべしとは」
- 多様な主体の参画
地元・都市の住民や企業等による地域活性化と森林保全活動
・ライス・アート in ひらいずみ
・イロハモミジの森 など
- 6次産業化の推進
地域資源を活用した農業法人や女性団体等による事業化の取組
・キッチンあごづ(コロッケ)
・アグリ平泉(パン、ワイン)
・産直あいあい など



いのちをくらし
災害から生命と生活を守り未来へつなぐ「東稲山麓地域の災害リスク分散型土地利用システム」



目次

1	世界及び日本においての重要性	9
	パートA 特別な価値及び特徴	9
	パートB 歴史的な関連性	25
	パートC 現代的な関連性	31
	パートD 比較分析	33
2	認定地域の特徴	
	(1) 食料及び生計の保障	37
	1) 災害を乗り越えるための複合農業の歴史	37
	2) 災害を克服するための営農技術	38
	3) 農業と生活を支える山地	39
	(2) 農業生物多様性	41
	1) 立体的土地利用による生物多様性	41
	2) システムと関わりの深い地域資源	44
	(3) 地域の伝統的な知識システム	46
	1) 土地の所有と利用の実態	46
	2) 災害のリスク分散	46
	(4) 文化、価値観及び社会組織	51
	1) 災害や苦難を乗り越えるためのコミュニティの継承	51
	2) 災害や苦難を乗り越えるための農村文化の継承	56
	3) システムを支える社会組織	58
	(5) ランドスケープ及びシースケープの特徴	60
	1) 立体的な土地利用が生み出す東稲山ランドスケープ	60
	2) 地域の象徴として親しまれる東稲山と北上川	62
	(6) 変化に対するレジリエンス	63
	1) 自然災害や社会経済への適応	63
	2) 生態系の変化に対する適応	63

（７）多様な主体の参画.....	64
1）文化をつなぎ、地域を守る仕組み.....	64
2）企業等と連携した地域の活性化.....	65
（８）６次産業化の推進.....	67
1）地域資源を生かした６次産業化の取組.....	67
2）関係機関・団体等による取組支援.....	68
3 添付資料.....	72